

令和6年度横浜市民スポーツ意識調査 結果報告

横浜市では、「横浜市スポーツ推進計画」の目標達成度合いを計るため、市民を対象としたスポーツ意識調査を毎年実施しています。この調査結果を踏まえ、「スポーツ都市横浜」の実現に向けた新たな政策立案等につなげていきます。

調査結果の詳細（クロス集計結果等）については、令和6年度横浜市民スポーツ意識調査報告書に掲載していますので、にぎわいスポーツ文化局ホームページを御覧ください。

(URL: <https://www.city.yokohama.lg.jp/kanko-bunka/sports/shinko/shinko/ishiki.html>)



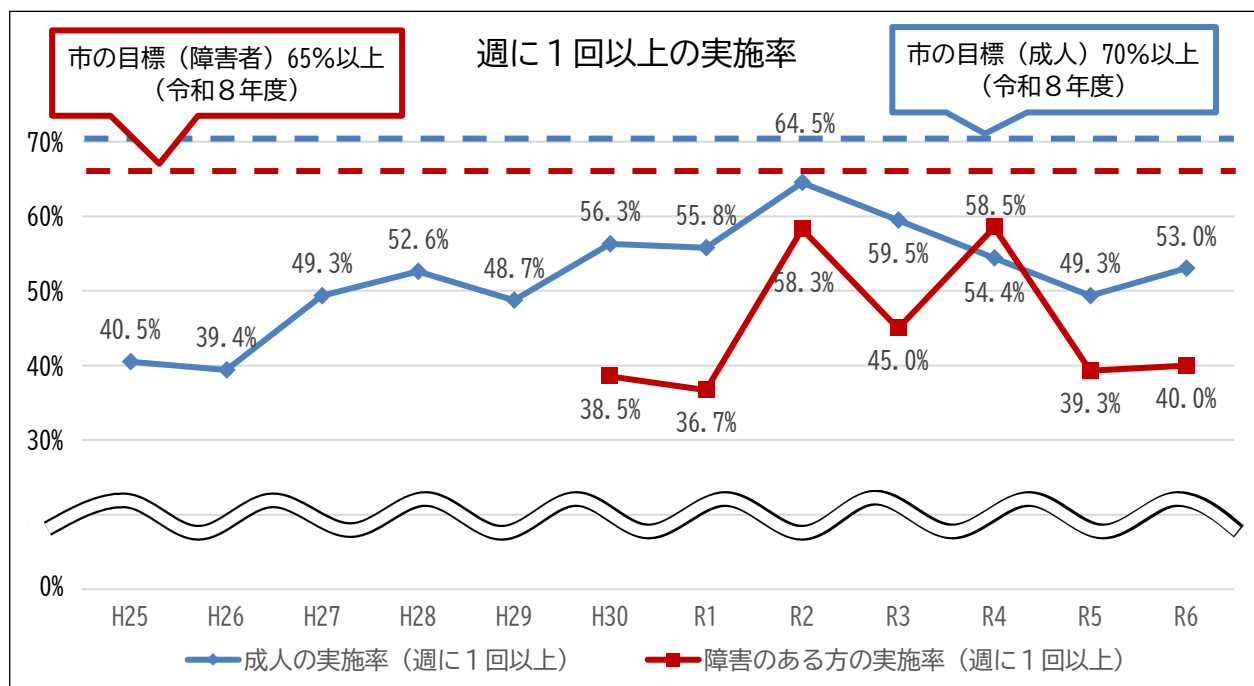
1 結果概要（別紙「令和6年度横浜市民スポーツ意識調査報告書 概要版」を参照）

(1) スポーツ実施率の変化

「成人の週1回以上のスポーツ実施率」は、平成26年度から増加傾向にありましたが、令和2年度から令和5年度まで減少に転じていました。令和6年度の調査では、令和5年度から3.7ポイント増となる53.0%となりました。

障害のある方については、平成30年度から調査を始めていますが、数値の上下が大きく、何らかの傾向はみられませんでした。

今後、令和8年度の横浜市の目標を達成するには、スポーツが好きであると感じている層が実際に「する」「みる」「ささえる」活動に取り組めるような働きかけが重要です。また、運動不足を感じて運動を実施した層が継続して運動できるよう運動・スポーツが健康に与える効果についての理解を高めていくことが必要と考えられます。



裏面あり



GREEN×EXPO 2027
YOKOHAMA JAPAN

2027年国際園芸博覧会 2027年3月～9月 横浜・上瀬谷



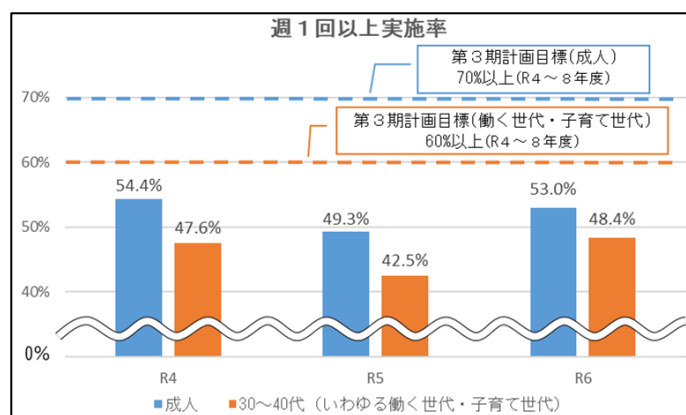
(2) 第3期横浜市スポーツ推進計画の目標値（抜粋）及び前年度との比較

項目	目標（R8）	R6	R5
成人の週1回以上のスポーツ実施率	70%以上	53.0%	49.3%
成人の1年に一度以上のスポーツ実施率	100%に近づける	79.7%	74.8%
スポーツが好きな人の割合	75%以上	66.3%	62.7%
働く世代・子育て世代の週1回以上のスポーツ実施率	60%以上	48.4%	42.5%
障害者の週1回以上のスポーツ実施率	65%以上	40.0%	39.3%
障害者の1年に一度以上のスポーツ実施率	80%以上	61.5%	52.6%
スポーツボランティア参加率	10%以上	8.3%	5.6%
市内でのスポーツイベント直接観戦率	30%以上	35.9%	24.1%
横浜市はスポーツが盛んであると思う市民の割合	70%以上	58.0%	51.8%

(3) 30～40代（いわゆる働く世代・子育て世代）のスポーツ

令和6年度の調査では、30～40代（いわゆる働く世代・子育て世代）の「週1回以上」のスポーツ実施率は48.4%となり、成人全体の53.0%と比較して低い結果となりました。

この傾向は、過去の結果でも同様にみられるため、成人全体の「週に1回以上」の実施率を向上させるためには、成人全体よりも実施率が低い30～40代（いわゆる働く世代・子育て世代）が運動しやすい環境を整えることが、引き続き、重要であると考えられます。



2 調査概要

- (1) 対象者
 - ア 横浜市に居住する満18歳以上の調査機関登録者男女1,997人
 - イ 次のいずれかを満たす調査機関登録者合わせて200人
 - (ア) 横浜市に居住する満18歳以上の障害のある方本人
 - (イ) 横浜市に居住する満18歳以上の障害のある方と同居している家族（代理回答）

※障害のある方が複数人いる場合は、最も年齢の高い方を対象とする
- (2) 抽出方法
 - ア 住民基本台帳登録者（令和6年3月末現在）の性別・年代・居住区の構成比率を基に市全体の縮図となるようサンプル数を割付し、調査機関登録者の中から有意抽出法により抽出
 - イ 調査機関登録者の中から有意抽出法により抽出
- (3) 調査方法 インターネットによるアンケート調査
- (4) 調査期間 令和6年11月22日（金）～11月29日（金）
- (5) 回収状況
 - ア 有効回答数:2,226件（ウェイトバック集計後1,997件）
 - イ 有効回答数:200件

※各区の人口構成比と調査設計のサンプルの割当て件数（1,997）でウェイトバック集計を行った。

※表中に複数回答の記載がある設問は、比率の合計が100%にならない場合がある。

※回答比率は、全て「n」を基準とした百分率で表し、小数第2位を四捨五入している。複数項目を合計した数値についてはローデータの合計値を四捨五入しており、個別の数値の合計値とは一致しない場合がある。

お問合せ先		
にぎわいスポーツ文化局スポーツ振興課長	吉田 登	Tel 045-671-3237



GREEN×EXPO 2027
YOKOHAMA JAPAN

2027年国際園芸博覧会 2027年3月～9月 横浜・上瀬谷



令和6年度 横浜市民スポーツ意識調査報告書 概要版

I 調査概要

- 1 目的 国の「スポーツ基本計画」を参考に策定した「横浜市スポーツ推進計画」における「する」「みる」「ささえる」スポーツの推進に向けて、運動・スポーツの実施率等、横浜市における現状を把握するため、市民を対象としたスポーツ意識調査を実施した。また、その結果を活かし、本市スポーツ施策における各種事業の現状と課題について考察し、課題解決に向けた新たな政策立案等につなげていく。
- 2 対象者 (1) 横浜市民スポーツ意識調査①
横浜市に居住する満18歳以上の調査機関登録者男女1,997人
(2) 横浜市民スポーツ意識調査②（障害のある方を対象とした調査）
次のいずれかを満たす調査機関登録者合わせて200人
ア 横浜市に居住する満18歳以上の障害のある方本人
イ 横浜市に居住する満18歳以上の障害のある方と同居している家族（代理回答）
※障害のある方が複数人いる場合は、最も年齢の高い方を対象とする
- 3 抽出方法 (1) 住民基本台帳登録者（令和6年3月末現在）の性別・年代・居住区の構成比率を基に市全体の縮図となるようサンプル数を割りし、調査機関登録者の中から有意抽出法により抽出
(2) 調査機関登録者の中から有意抽出法により抽出
- 4 調査方法 インターネットによるアンケート調査
- 5 調査期間 令和6年11月22日(金)～11月29日(金)
- 6 回収状況 (1) 有効回答数：2,226件（ウェイトバック集計後1,997件） (2) 有効回答数：200件
※(1)は、各区の人口構成比と調査設計のサンプルの割当て件数（1,997）でウェイトバック集計を行った。
※表中に複数回答の記載がある設問は、比率の合計が100%にならないことがある。
※回答比率は、全て「n」を基準とした百分率で表し、小数第2位を四捨五入している。複数項目を合計した数値についてはローデータの合計値を四捨五入しており、個別の数値の合計値とは一致しない場合がある。

【第3期横浜市スポーツ推進計画における指標（抜粋）】

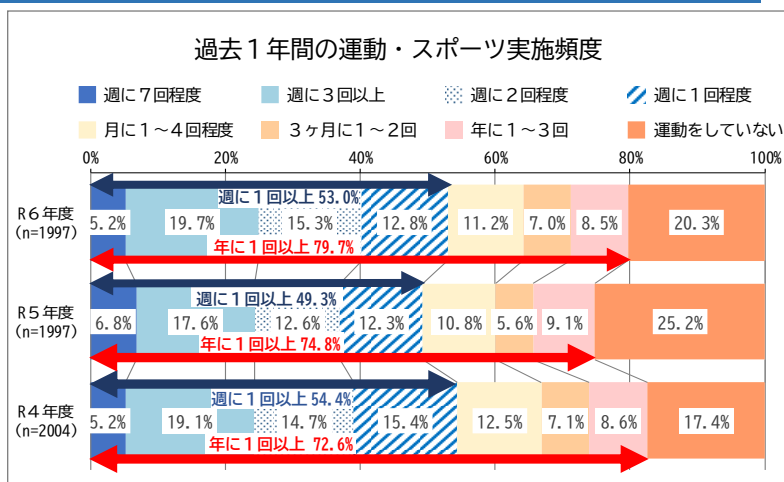
指標	目標値 (令和8年度)	令和6年度 (今回)	令和5年度
成人の週に1回以上のスポーツ実施率	70%以上	53.0%	49.3%
成人の1年に一度以上のスポーツ実施率	100%に近づける	79.7%	74.8%
スポーツが好きな人の割合	75%以上	66.3%	62.7%
働く世代・子育て世代の週1回以上のスポーツ実施率	60%以上	48.4%	42.5%
障害者の週1回以上のスポーツ実施率	65%以上	40.0%	39.3%
障害者の1年に一度以上のスポーツ実施率	80%以上	61.5%	52.6%
スポーツボランティア参加率	10%以上	8.3%	5.6%
市内でのスポーツイベント直接観戦率	30%以上	35.9%	24.1%
横浜市はスポーツが盛んであると思う市民の割合	70%以上	58.0%	51.8%

Ⅱ 結果概要

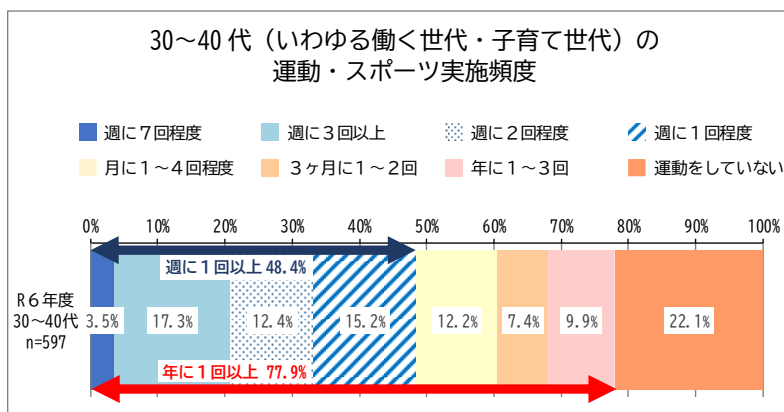
「する」スポーツ

- 「週に1回以上」の運動・スポーツ実施率は53.0%
令和5年度の49.3%から3.7ポイント増、横浜市スポーツ推進計画の目標（以下、市の目標）（70%以上）には17.0ポイント及ばなかった。

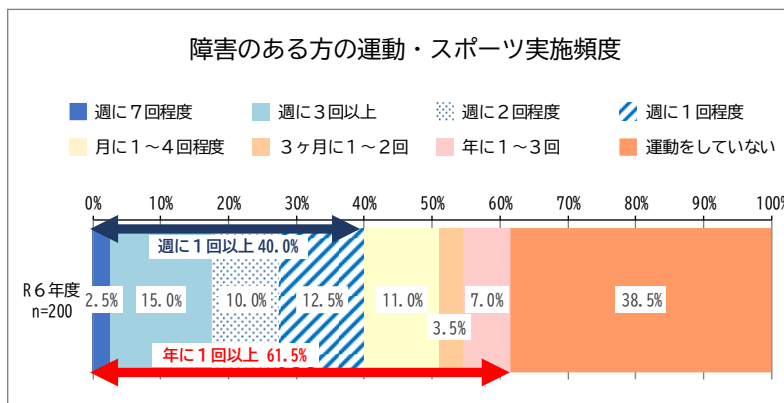
- 「1年に一度以上」の運動・スポーツ実施率は79.7%
令和5年度の74.8%から4.9ポイント増、市の目標（100%に近づける）には20.3ポイント及ばなかった。



- 30~40代（いわゆる働く世代・子育て世代）の「週に1回以上」のスポーツ実施率は48.4%
令和5年度の42.5%から5.9ポイント増、市の目標（60%以上）には11.6ポイント及ばなかったが、全体と比較して前年度からの伸び率が高かった。

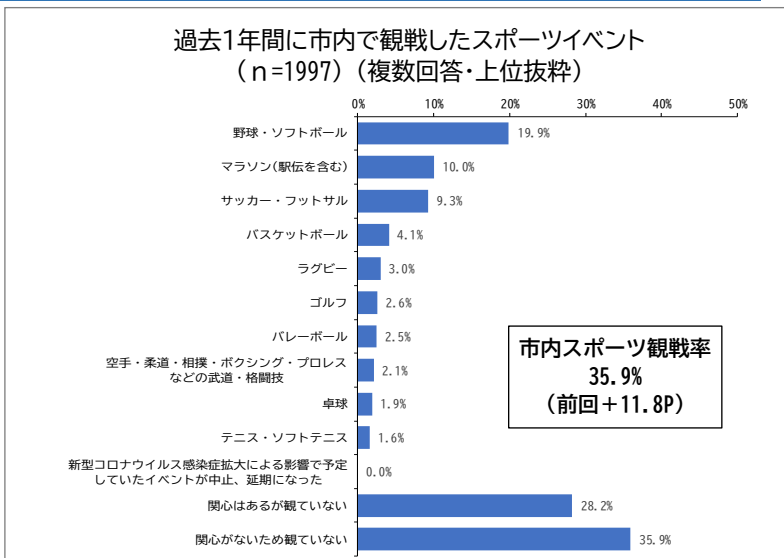


- 障害のある方の「週に1回以上」のスポーツ実施率は40.0%
令和5年度の39.3%から0.7ポイント増、市の目標（65%以上）には25.0ポイント及ばなかった。
- 障害のある方の「1年に一度以上」の運動・スポーツ実施率は61.5%
令和5年度の52.6%から8.9ポイント増、市の目標（80%以上）には18.5ポイント及ばなかった。



「みる」スポーツ

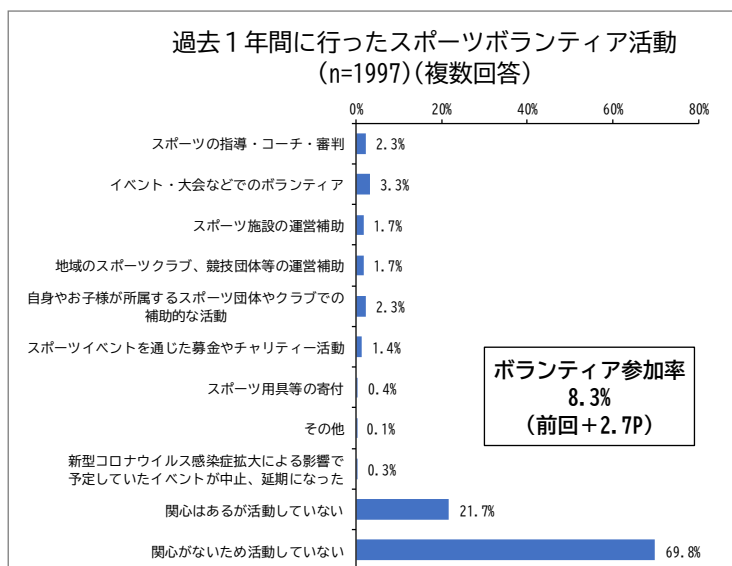
- 過去1年間の市内での観戦率は35.9%
市内でのスポーツイベント直接観戦率（プロスポーツやトップアスリートが参加するものに限らない）は35.9%となった。令和5年度の24.1%から11.8ポイント増、市の目標（30%以上）を5.9ポイント上回った。
なお、種目については、「野球・ソフトボール」が19.9%で1位、次いで「マラソン（駅伝を含む）」が10.0%という結果だった。



ささえる」スポーツ

●過去1年間に行ったスポーツボランティア活動への参加率は8.3%

令和5年度の5.6%から2.7ポイント増、市の目標（10%以上）には1.7ポイント及ばなかった。

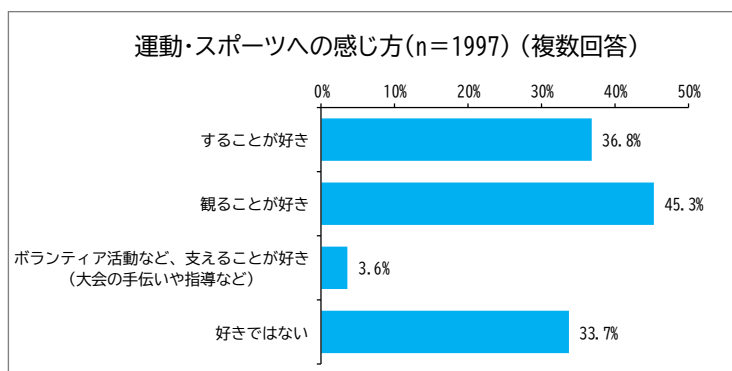


横浜市のスポーツについて

●スポーツが好きな人の割合は66.3%

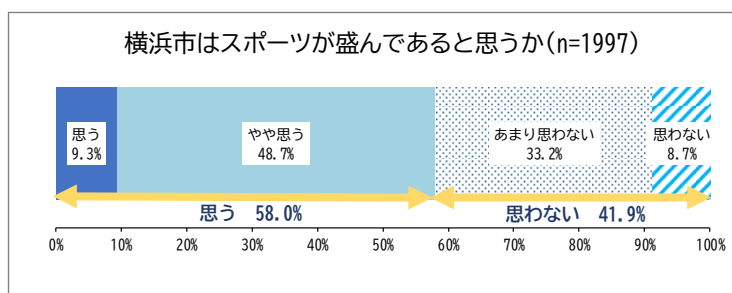
スポーツへの感じ方は、「観ることが好き」(45.3%)が最も高く、次いで「することが好き」(36.8%)となった。

する・みる・ささえるのいずれかを好きと回答した割合は66.3%で、令和5年度の62.7%より3.6ポイント増、市の目標（75%以上）には8.7ポイント及ばなかった。



●横浜市はスポーツが盛んであると思う人の割合は58.0%

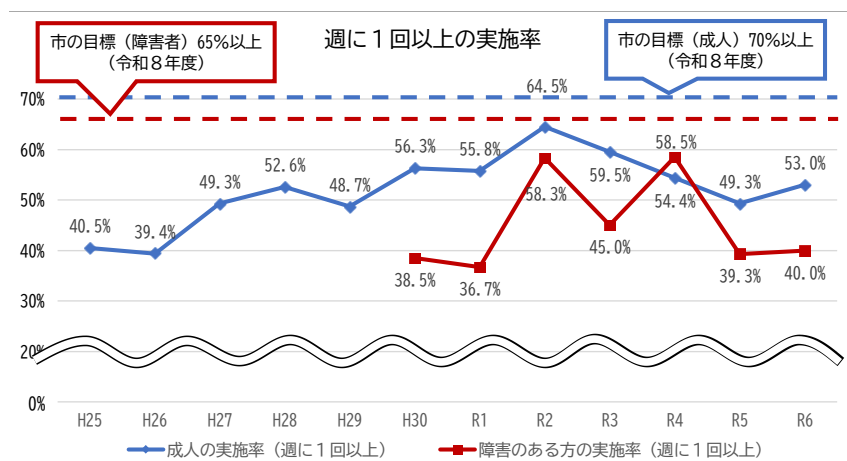
横浜市はスポーツが盛んであると思う（「思う」「やや思う」計）の割合は58.0%となり、令和5年度の51.8%から6.2ポイント増、市の目標（70%以上）には12.0ポイント及ばなかった。



Ⅲ スポーツ実施率の変化

成人の週に1回以上のスポーツ実施率は、平成26年度の39.4%から増加傾向にある。コロナ禍で令和2年度から令和5年度にかけて減少したが、令和6年度は増加に転じている。

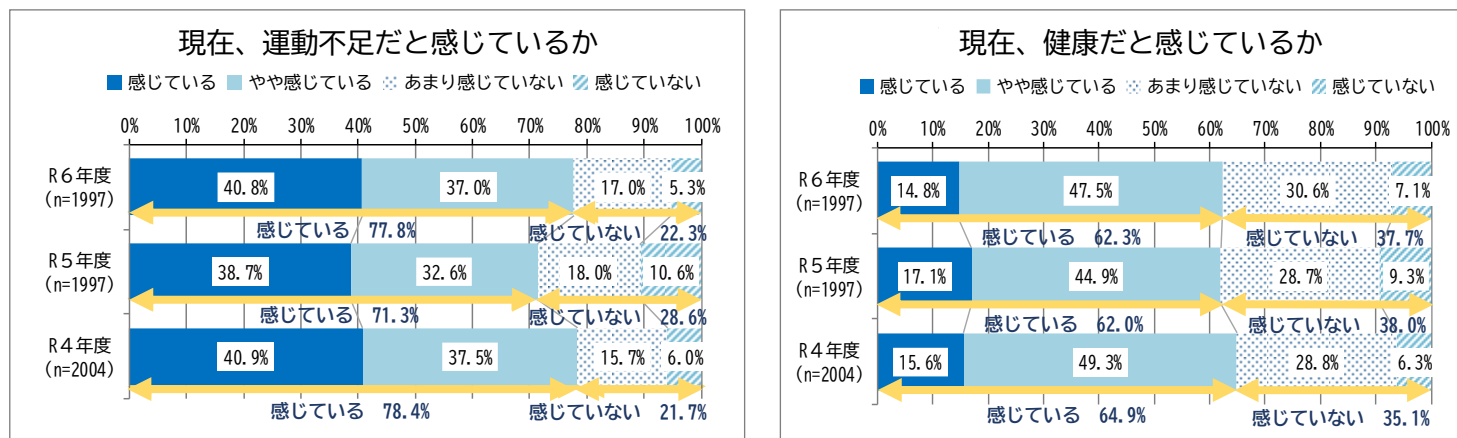
障害のある方については、平成30年度から調査を始めたが、数値の上下が大きく、何らかの傾向はみられなかった。



IV 運動・スポーツ実施に対する意識の変化

意識の変化としては、「運動不足と感じている」層（「感じている」「やや感じている」の計）は 77.8%となった。令和5年度の71.3%に比べ、6.5ポイント増となっており、運動不足と感じている人の割合が増えている。

一方、「健康だと感じている」層（「感じている」「やや感じている」の計）は 62.3%で、令和5年度の62.0%に比べ、0.3ポイント増となっている。



V まとめ

令和6年度は、全ての指標において令和5年度を上回った。

特に、市内でのスポーツイベント直接観戦率は 11.8 ポイント上昇し、令和8年度の市の目標値を上回った。観戦した種目は野球・ソフトボールが最も多く、次いでマラソン（駅伝を含む）、サッカー・フットサルと続いており、トップスポーツチームとの連携や、大規模スポーツイベントの誘致・開催支援の取組の成果が表れていると考えられる。

「成人の週に1回以上のスポーツ実施率」は 3.7 ポイント増加しているが、一方で「運動不足と感じている」層が 6.5 ポイント増加しており、運動をしていても運動不足と感じている傾向も見られる。また、「いわゆる働く世代・子育て世代の週に1回以上のスポーツ実施率」が全体と比較して低い傾向が続いている。

スポーツを好きな人の割合は 66.3%と 3.6 ポイント増加しており、中でも「観ることが好き」が 45.3%と最も高い。

令和8年度の市の目標を達成するには、スポーツが好きであると感じている層が実際に「する」「みる」「ささえる」活動に取り組めるような働きかけが重要である。また、週に1回以上の運動・スポーツ実施率を向上させるためには、引き続きいわゆる働く世代・子育て世代が運動しやすい環境を整えることが重要であると同時に、運動不足を感じて運動を実施した層が継続して運動できるよう運動・スポーツが健康に与える効果についての理解を高めていくことが必要であると考えられる。

VI 報告書について

報告書（PDF）は、横浜市ホームページにて公開しています。報告書では、単純集計のほか、性別、年代別、性・年代別、居住区別のクロス集計結果等も掲載しています。詳細は報告書を御参照ください。

※訂正等があった場合についても、ホームページに掲載します。

【令和6年度横浜市民スポーツ意識調査報告書 概要版】

令和7年3月

編集・発行 横浜市にぎわいスポーツ文化局スポーツ振興課
045-671-3583

横浜市中区本町6丁目50番地の10

<https://www.city.yokohama.lg.jp/kanko-bunka/sports/shinko/shinko/ishiki.html>

